

10代のあなたに贈るブックガイド 2017

湖南市立図書館編集・発行

■マークは石部図書館に、★マークは甲西図書館にあります。

勇気・挑戦				
『スマイリング!』	土橋章宏 / 著	中央公論社	★	(F-トハ)
関口俊太はロードバイクにあこがれる中学生。一人ママチャリでトレーニングしていたが、町の自転車屋の店長との出会いが、俊太を変える。				
『臆病な僕でも勇者になれた七つの教え』	旺季志ずか / 著	サンマーク出版	★	(F-オウ)
青い髪の「バケモノ」と呼ばれる少年キラ。「自分には無理」を乗り越えるとき、心の中に何が起こるのか。森で出会った老師に導かれ、冒険に出る。				
『春や春』	森谷明子 / 著	光文社	■★	(F-モリ)
目指せ、俳句甲子園! 6人の女子高校生が挑む、17文字のバトル。				
『LIVE! LOVE! SING! 生きて愛して歌うこと』	一色伸幸 / 著	河出書房新社	★	(F-イツ)
被災後、散り散りになった同級生たちの旅が始まった。たどり着いた福島で彼らが見たものとは。神戸と福島を繋ぐ、ドラマの小説化。				
『正しい目玉焼きの作り方』	森下えみこ / イラスト	河出書房新社	★	(児590)
「洗濯」「料理」「片付け・掃除」「裁縫」の基本を、イラストを交えながら、それぞれのプロに学ぶ。きちんとした大人になるための家庭科の教科書。				
『不可能を可能にする 大谷翔平120の思考』	大谷翔平 / 著	ぴあ	★	(783.7-オオ)
「誰もやったことがないことをやりたい」。投手と野手を両立するプロ野球選手、大谷翔平のメッセージ集。				

出会い				
『夜間中学へようこそ』	山本悦子/著	岩崎書店	■★	(児913-ヤマ)
おばあちゃんがわたしと同じ中学一年生なんて。祖母のつきそいで夜間中学に通うことになった優菜。外国人のカルロスくんや不登校の上村くん。様々な仲間たちとの出会いが、優奈の世界を広げていく。				
『島の先生』	トイシゲキ/著 荒井修子/原作	幻冬舎	★	(F-ト)
島には都会で傷ついた子どもたちが留学生として集まってくる。そんな島の先生の千尋には決して明かせない過去があった。				
『どうぶつがっこう とくべつじゅぎょう』	トビイルツ/作・絵	PHP研究所	■★	(児ト)
『どうぶつがっこう』はどうぶつたちが先生で、にんげんの子どもたちが生徒の学校。しまうまくんだけが、どうぶつの生徒です。しまうまくんは、授業では苦手なことだらけ。ある日、黒しまうまくんがあらわれて…。				
『世界を7で数えたら』	ホリー・ゴールドバーク ・スローン/著	小学館	★	(児 933-スロ)
ウィローは7番目の月の7番目の日に養女になった。7という数字にこだわる変わり者の天才少女が、自分の生きる場所を見つけていく物語。				
『翻訳できない世界のことば』	エラ・フランス・サンダース /著	創元社	★	(804-ホ)
他の国のことばに訳しても、そのニュアンスをうまく表現できないことばがある。感性豊かな解説と、お洒落なイラストを添えた、世界一ユニークな単語集。				
『きみの声をきかせて』	小手鞠るい/著	偕成社	■★	(児913-コテ)
パソコンを消そうとした瞬間、ぱっと目にとびこんできた文字があった。「海を渡る風」。日本に住む孤独な少女と、アメリカに住むピアノ弾きの少年の交流を描く。				
『ペーパーボーイ』	ヴァイス・ウォーター/著	岩波書店	★	(児933-ウオ)
1959年、アメリカのメンフィス。ぼくは、すぐに「どもる」せいで人と話すのは緊張する。しかし、夏休みのあいだ友達の代わりに新聞配達をすることになる。そこでは、思いもよらない事件と人々との出会いが待っていた。				

こんな本も…			
『百年後、ぼくらはここにいないけど』	長江優子/著	講談社	■★ (児913-ナカ)
中学生の健吾たちは地理歴史部。この町が長い時をかけて作りあげた人々の思いに向き合い、ジオラマを作っていく。			
『江ノ島西浦写真館』	三上延/著	光文社	■★ (F-ミカ)
祖母の遺品整理のために訪れた写真館。そこには注文したまま誰も受け取りに来ない写真があった。『ビブリア古書堂の事件手帖』の著者が描く新たなミステリ。			
『駅鈴(はゆまのすず)』	久保田香里/著	くもん出版	★ (児913-クホ)
メールも電話もない時代、急な知らせを駅鈴を鳴らし馬で駆け伝えた人たちがいた。奈良時代の近江を舞台にした話。			
『八月は冷たい城』	恩田陸/著	講談社	■★ (F-オン)
夏の城—夏流城で行われる、奇妙な臨海学校。光彦たちは、無事に帰還できるのか。少女たちの視点で描かれた『七月に流れる花』の続編。			

ちょっと一息			
『くらべる時代 昭和と平成』	おかべたかし/文	東京書籍	★ (210.7-ク)
「昭和」のオムライスと「平成」のオムライス、「昭和」の信号と「平成」の信号など。両者の変化や違いを、解説とともに写真で見比べる。同シリーズに関東と関西を比較できる『くらべる東西』もあり。			
『つちはんみょう』	館野鴻/作・絵	偕成社	■★ (E-ツチ)
とても小さなつちはんみょうの幼虫は、色々な虫にとりついて、寄生先のハチの巣にたどりつく。種の存続のための知恵とたたかを描いた科学絵本。			
『みつけてん』	ジョン・クラッセン作	クレヨンハウス	★ (E-ミツ)
ふたりづれのかめが、帽子をみつけました。でも一つだけ。ふたりとも帽子をかぶることができるのでしょうか。			
『カイとカイサのぼうけん』	エルサ・バスコフ/作・絵	福音館書店	★ (E-カイ)
カイとカイサは兄妹。いつも枯れ木にとびのって遊んでいました。ある日、枯れ木はドラゴンのように空にとびあがりました。たどり着いた島では、お姫様が泣いていました…。			

戦争				
『戦争といのちと聖路加国際病院ものがたり』	日野原重明 / 著	小学館	★	(児916)
1902年にアメリカ人・トイスラー医師が開設した「聖路加病院」。太平洋戦争が始まった年に就職した日野原医師による、病院をとりまく戦中・戦後の物語。				
『アウシュヴィッツの図書係』	アントニオ・G・イトゥルベ / 著	集英社	★	(963-1)
強制収容所にひっそりと作られた8冊だけの秘密の図書館。読書が禁じられた状況で、収容された人の希望の8冊を毎晩違う場所に隠す少女がいた。実話に基づいた物語。				
『ベト・ドクと考える世界平和』	尾崎望・藤本文朗 / 編著	新日本出版社	★	(369.3-へ)
結合双生児として生まれてきたドクさんの思い。ベトナム戦争で使われた枯葉剤は、今でも人体に深刻な影響を与えている。戦争と障がい者、そして日本の平和教育について考える。				

聞いてみたいこと				
『リア友トラブル』	長江優子 / 著	金の星社	★	(児913-ナカ)
「友だち関係のトラブル」をテーマにした3つのストーリーにどうすればよいのかを心理学者の先生たちが答えてくれます。シリーズに『ネトゲ中毒』『家族コンプレックス』もあります。				
『ストップ!ゲーム依存1・2・3』		汐文社	★	(児493)
「ゲームにはまる理由」「進化するゲームの世界」「データで見るゲームの最新事情」を取り上げる。				
『夜を乗り越える』	又吉直樹 / 著	小学館	★	(910.2-ヨ)
『火花』で芥川賞作家となった芸人の又吉直樹。少年期からこれまで読んできた数々の小説を通じて、「なぜ本を読むのか」「文学の何が面白いのか」「人間とは何か」を考える。				
『おとなになるってどんなこと?』	吉本ばなな / 著	筑摩書房	★	(F-ヨシ)
勉強のこと、友だちのことなど吉本ばなながやさしく答えてくれます。				